

# 和文誌「顕微鏡」執筆要項

(2019.5.18 改訂)

1. 和文誌「顕微鏡」は、顕微鏡学の発展・普及と技術の向上ならびに後進の育成に資することを目的としており、初心者や他分野の読者にも理解できるよう、わかりやすく執筆する。

## 2. 記事の内容と体裁

「顕微鏡」の記事の内容は、原則として下記の種別に基づいた編集委員会からの依頼論文とし、査読も行なう。なお、「読者のコーナー」は会員からの直接投稿も受け付ける。

【原稿種別一覧表】

種別	刷り上り頁数	本文：文字数の目安（全）	その他
巻頭言	1頁	2,000字	略歴 200字以内
追悼文	1頁	2,000字	要旨・キーワードは不要
解説	広い視野から専門分野以外の読者にも分かりやすく解説する。		
	6～8頁	13,700字 ～18,700字	和文要旨 400字以内 英文要旨 200 words 以内 キーワード（和・英）5つ以内
特集 (全体で20頁)	1つのテーマにおける最近の動向を数人の著者で総合的に解説する。		
	特集序文 1頁	2,000字	和文要旨 400字以内 英文要旨 200 words 以内 キーワード（和・英）5つ以内
	3頁	6,200字	
	4頁	8,700字	
	5頁	11,200字	
6頁	13,700字		
学会賞(継続論文)	6頁以内	13,700字 以内	和文要旨 400字以内 英文要旨 200 words 以内 キーワード（和・英）5つ以内
講座	著者の専門分野の中のある主題について、専門分野以外の読者、特に初心者にも易しく理解できて、年月が経っても価値が失われないような体系的知識を提供する内容とする。		
	4～6頁	8,700字 ～13,700字	和文要旨 400字以内 英文要旨 200 words 以内 キーワード（和・英）5つ以内
最近の研究と技術	最近の研究上の特に新しい話題や、新しい実験法や技術について紹介する。		
	4頁以内	9,000字 以内	和文要旨 200字以内 英文要旨 200 words 以内 キーワード（和・英）5つ以内
会議報告	著者が参加した会議・シンポジウムの内容、特色、トピックス、研究動向などを報告する。		
	1頁	2,000字	要旨・キーワードは不要
海外研究室便り	著者が所属または訪問した海外研究室の特色、トピックス、研究動向などを紹介する。		
	1頁	2,000字	要旨・キーワードは不要
書評	学会員に有益な顕微鏡に関連する新刊書籍を紹介する。		
	1頁	2,000字	要旨・キーワードは不要
読者のコーナー	会員が直接参加し、情報や意見を交換する。		
	1頁	2,000字	要旨・キーワードは不要

### 3. 原稿スタイルと刷り上がり頁数

- 1) 原稿は和文で横書きとし、原則として当用漢字、新仮名づかいを用いる。
- 2) 表題ページ、本文、引用文献、表・図の説明の順に並べて通し番号を入れ、その後に表、図を添付する。
- 3) 原稿は、A4 サイズの用紙にワープロ打ちとし、書式は問わない。刷り上がりの文字数は概数で各記事次の通りとなるが、図(写真)の取り扱いサイズなどで誤差が生じる事があるので規定頁数超過には注意を払うこと。
- 4) 依頼頁数を超過した原稿は、書き直しをお願いする。もしくは組版後に依頼頁数を超過していることが判明した場合、超過ページ料金を著者負担とする(後述の 11.4 を参照のこと)。
- 5) 転載許可が必要な図等は、必ず執筆者自身で転載許可手続を取り、学会和文誌「顕微鏡」に掲載可能な状態で寄稿すること。

### 4. 表題ページ

- 1) 表題ページ(1 ページ目)には、表題、著者名、所属機関とその所在地、要旨・キーワードを書く。
- 2) 表題と著者名は和文と英文を併記し、所属機関とその所在地は和文のみとする。著者が希望する場合は、電話、Fax、E-mail も入れる。
- 3) 要旨を必要とする記事は、和文要旨と英文要旨を併記する。なお、英文要旨は和文誌には掲載せず、学会ホームページに和文要旨とともに掲載される。
- 4) キーワードを必要とする記事は和文と英文を併記し、それぞれ5語以内とする。
- 5) 表題ページの本文の刷り上がり文字数は、解説、学会賞(瀬藤賞)論文、講座については1,200字に換算し、最近の研究と技術は1,500字に換算する。

### 5. 活字指定

- 1) 量を表す記号(変数)および学名はイタリック、単位および元素記号は立体を使用する。
- 2) 外国人名は原語で書く。

### 6. 数式

- 1) 数式には(1)、(2)、(3)の一連番号を付ける。
- 2) 数式が文中に出てくる場合は、 $a/(b+c)$ 、 $\exp$ 等の記法を用いる。
- 3) 原則として、変数はイタリック、単位、演算記号は立体とするが、複雑または特殊な数式の場合には、字体、上つき、下つきなど原稿中にできる限り明確に指示する。
- 4) 数式は一般にイタリックで組むから、特に立体とすべき文字記号は、 $\exp$ 、 $\text{grad}$ のように文字の上に記号をつけて指定する。

### 7. 図(写真を含む)、表

- 1) 図(写真)・表は、原則として、刷り上がりの大きさを横8.5 cm(片段)、または17.5 cm(両段)の2種類とする。
- 2) 提出する図の大きさは、刷り上がり寸法の1~1.5倍、写真はできれば同一寸法が望ましい。
- 3) 多くの枚数の写真を使用する場合は、それぞれを別の図番号とするよりは、むしろ可能な限りまとめて組写真とする方が望ましい。
- 4) 顕微鏡写真の場合は、スケールを明示し、 $\mu$ 記号を用いるときには $\mu\text{m}$ とする。
- 5) 数字、記号、矢印等は、縮小率(刷り上がりの大きさ)を考慮し、スミまたは印刷文字を用いて、ていねいに記入する。
- 6) 表は、縦罫を省いてもわかりやすいように作る。
- 7) 図・表によって占める原稿の長さは、以下のように換算する。

- a) 図・表の横幅 8.5 cm の場合  
(相当文字数) = (図の縦の長さ(cm)×54)
  - b) 図・表の横幅 17.5 cm の場合  
(相当文字数) = (図の縦の長さ(cm)×108)
  - c) 図・表の挿入希望箇所を原稿中に図・表番号を記入して明示する.
- 8) 写真および図・表の説明はすべて和文とし、原稿末尾に一括記載する.
- 9) カラー図版の扱いについては以下の通りとする.
- a) Web 版, 印刷版ともにカラーの場合, カラー印刷代 (2万5千円/頁) は著者負担とする.
  - b) Web 版のみカラーで印刷体はモノクロとする場合は無料とする.

## 8. 用語解説

著者は論文の最後に読者の理解を促す用語解説を記載する。解説される用語数は、原則、著者判断とするが、必要に応じて査読者から指摘が加えられることがある。

## 9. 文献の引用

- 1) 文献は本文に引用番号 1),2,3),4~6) をつけ、原稿の最後に、引用番号順に文献番号一つにつき、文献は一つにし、一括記載する.
- 2) 欧文は半角入力とする.

### <例 I. 欧文の文献>

- 1) Yamada, E., Ishikawa, H. and Nonomura, S.: J. Electron Microsc., 24, 120-131 (1975)
- 2) Creutzfeldt, W. and Frerichs, H.: The Structure and Metabolism of the Pancreatic Islets, Pergamon Press, Oxford, 181-190 (1970)
- 3) Yamada, E.: in Smelser, G.K. (Ed.), The Structure of the Eye, Academic Press, New York, 73-80 (1961)
- 4) Parapat, S.B.: Proc. 7th Int. Congr. Electron Microsc., Grenoble, Vol. 3, 475 (1970)

### <例 II. 日本語の文献>

- 1) 美浜和弘, 田中信夫: 日本物理学会誌, 34, 473-476 (1979)
- 2) 小川和朗: 細胞—しくみとはたらき—, 朝倉書店, 東京, 100-105 (1982)
- 3) 本庄五郎, 八木克道: 小川四郎 (編), 薄膜・微粒子の構造と物性, 丸善, 東京, 1-5 (1974)
- 4) 松本えみこ, 広沢一成: 電子顕微鏡学会 第39回学術講演会予稿集, 90 (1983)

## 10. 提出原稿部数と投稿方法

- 1) 初稿の提出は、編集業務の簡素化と迅速化のため、電子メールによる提出が望ましい(1 メールあたりの最大容量は 10MB 以内)。初稿の図(写真)の解像度は、200dpi 程度で良いが、必ずオリジナルは高解像度(300dpi 以上)で保存し、最終稿提出に当たっては 2) に定めるデータ形式を整えて提出する。郵送を希望する場合は、紙媒体に印刷したオリジナル 1 部とそのコピー 1 部 (写真はオリジナルに近いもの) を提出する.

(※電子メールで提出された場合は編集業務をメールで行い、郵送により提出された場合は、従来通り郵送による編集を行います。)

- 2) 最終稿の提出は、電子メールによる提出を基本とし (1 メールあたりの最大容量は 10MB 以内) , 容量が大きい場合は複数のメールに分割するか、電子媒体 (CD-R 等に記録し、使用ソフトを記入) に記録して編集係に郵送する.

最終稿提出に当たっての図版の解像度の目安は以下の通りである。

- a)写真は、グレースケールの場合で256階調，300dpi以上，文字や記号が入る場合は1200dpi程度が望ましい。
- b)線画は、モノクロ2値の場合で，1200dpi以上が望ましい。

※執筆依頼時に編集係から発行される「図版原稿の入稿について」を参照しデータ形式を整えて入稿すること。

## 11. その他

- 1) 原稿執筆に当たっては「顕微鏡」最新号を例として参照する。
- 2) 著者校正は初校のみとし，誤植，組版の誤りを直すに止め，内容の書き換え，加筆は絶対にしないこと。
- 3) 掲載論文のPDFを著者に無料贈呈する。冊子体の別刷については50部単位で部数（有料）を校正時に注文する。
- 4) 超過頁料金は，実費（¥16,400／頁）を著者負担とする。
- 5) 和文誌「顕微鏡」に掲載された論文の著作権（＝著作財産権，Copyright）は，日本顕微鏡学会に帰属する。

### ◆最終原稿の送付先

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

中西印刷株式会社内「顕微鏡」編集係

TEL: 075-441-3155 FAX: 075-417-2050

E-mail: microscopy@nacos.com